

7.2 将来利用計画図

(1) 本港地区

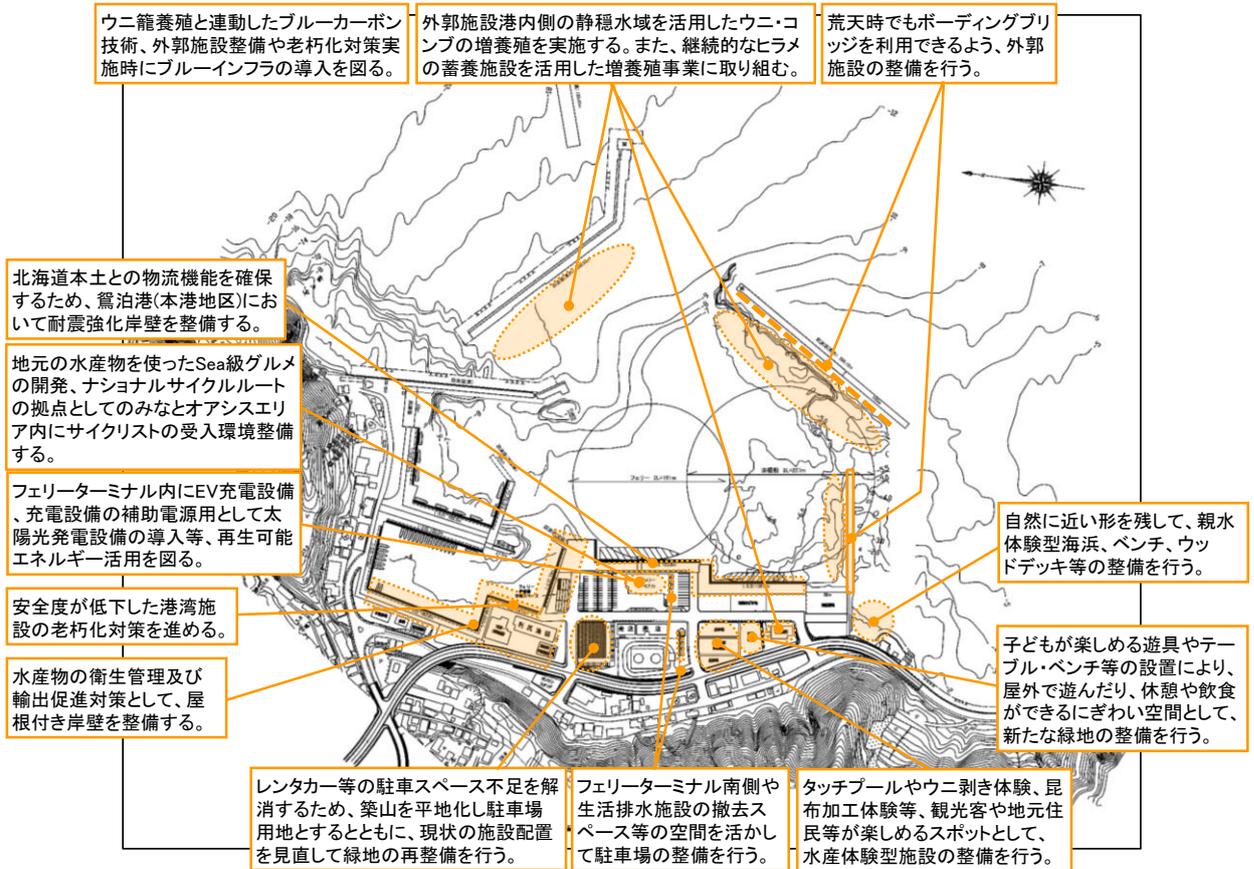


図 7-2-1 本港地区利用計画

(2) 鬼脇港区

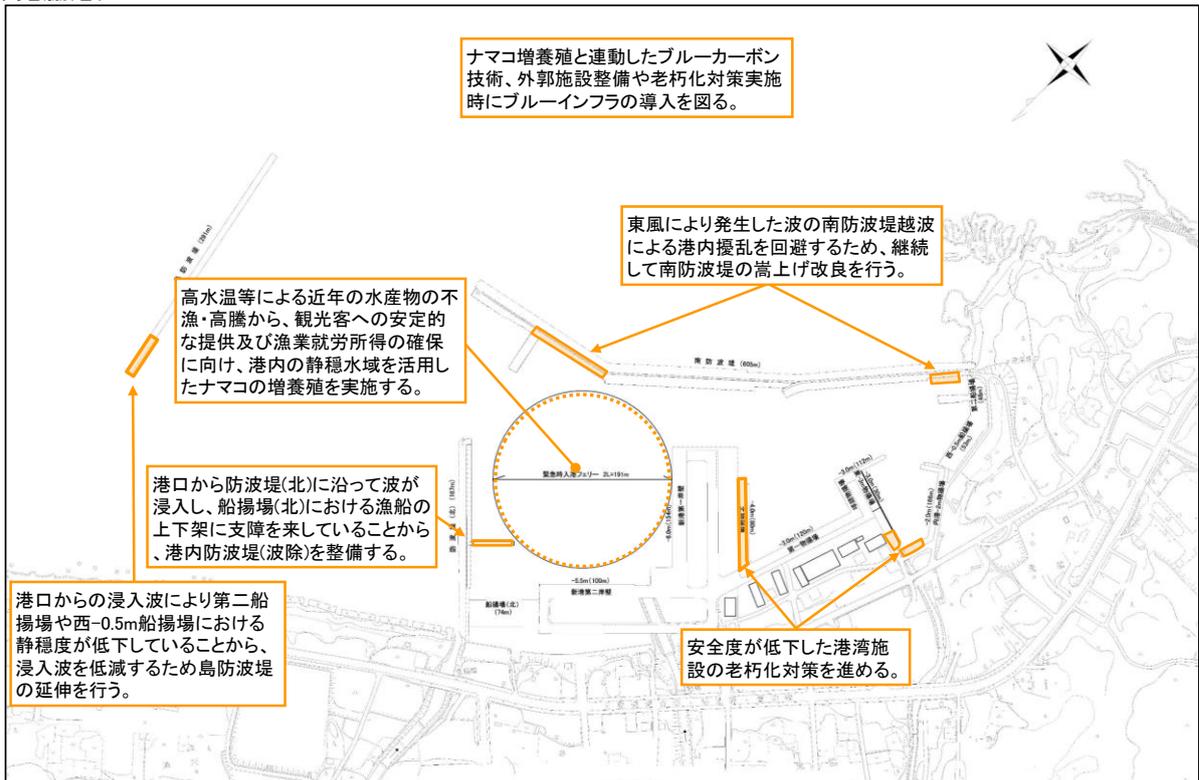


図 7-2-2 鬼脇港区利用計画

(3) 車流動線図

車両の交通量がピークとなるフェリー到着時の車流動線は下図のように設定する。

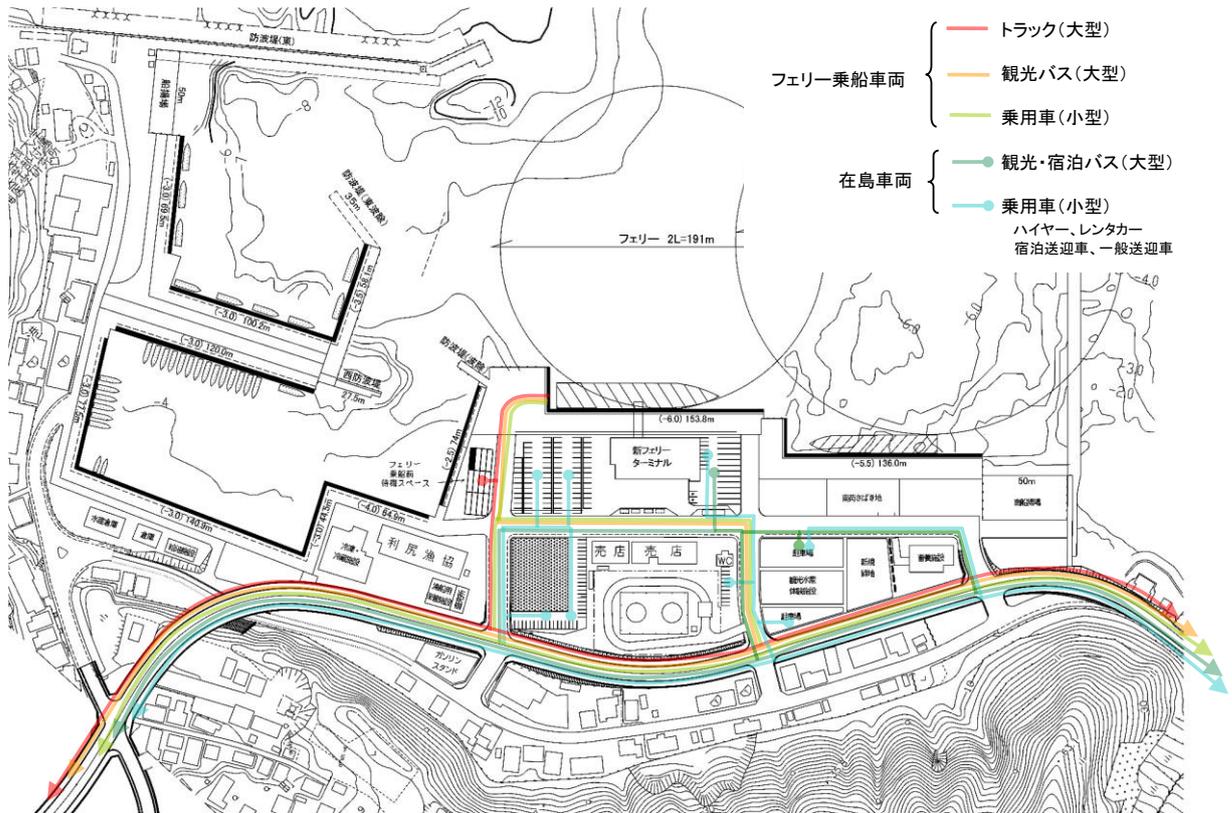


図 7-2-3 フェリー到着時の車流動線計画

(4) 人流動線図

人の通行量がピークとなるフェリー到着時の人流動線は下図のように設定する。

H22 フォローアップ時に検討した観光シーズン期の臨港道路の歩行空間化(72P 参照)については、車流動線が寸断されるため現実的ではないことから、現状通りの利用計画とした。

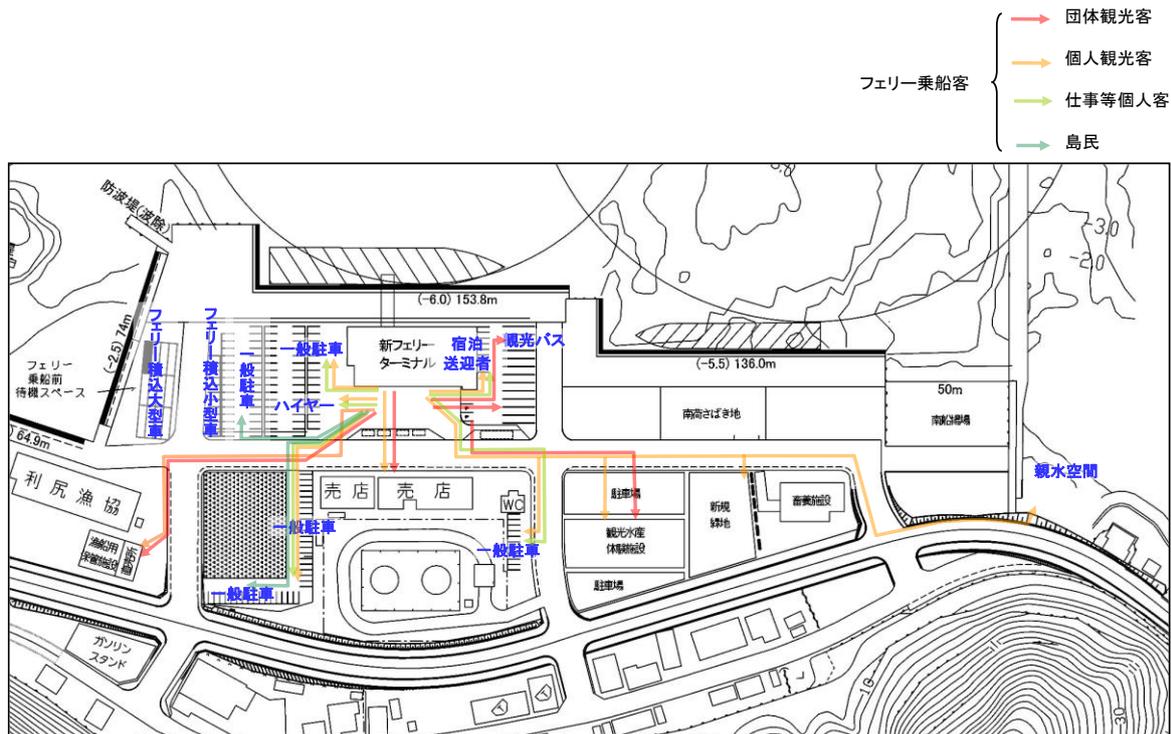


図 7-2-4 フェリー到着時の人流動線計画

7.3 鳥観図

以下に、鴛泊港の鳥観図として、鴛泊港(本港地区)全体版、鴛泊港(本港地区)屋根付き岸壁拡大部、鴛泊港(鬼脇港区)全体版の図を示す。

(1) 鷺泊港(本港地区)全体版



图 7-3-1 鷺泊港(本港地区)全体版

(2) 鷺泊港(本港地区)フェリーターミナル及び事業用地周辺拡大部



図 7-3-2 鷺泊港(本港地区)フェリーターミナル及び事業用地拡大版

(3) 鷺泊港(本港地区)屋根付き岸壁拡大部



图 7-3-3 鷺泊港(本港地区)屋根付き岸壁拡大部

(4) 鷺泊港(鬼脇港区)全体版



图 7-3-4 鷺泊港(鬼脇港区)全体版

第8章 事業実施に向けての留意事項の整理

8. 事業実施に向けての留意事項の整理

今回検討した鴛泊港長期構想は、令和 27 年頃を計画目標年次としており、取組内容と短期、中期、長期別に整理している。

今後、個別の取組を具体的に進めていくにあたり、更なる検討が必要となる事項や課題、他機関との調整が必要な事項など、事業実施に向けて想定される留意事項について整理した。

8.1 全体的な留意事項

(1) まちづくりや関連計画との整合性の確保

「鴛泊港長期構想」は、鴛泊港に係る新たな課題・要請等を把握した上で、令和 27 年頃を計画目標年次として、今後の鴛泊港の利用方策を取りまとめたものである。

しかし、今後、本長期構想で示した取組内容や施設整備を実現していくためには、利尻富士町の上位計画である「利尻富士町まちづくり創造総合計画」をはじめとして、まちづくり関係では「利尻富士町まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「鴛泊市街地整備計画マスタープラン」、防災・減災関係は「利尻富士町地域防災計画」や「利尻富士町強靱化計画」、環境関係は「利尻富士町地球温暖化対策実行計画」等の関連計画との整合や連携を図りながら取組内容を推進していくことが必要となる。

(2) 関係者及び各関係機関との調整や合意形成

本長期構想では、今後、鴛泊港における取組内容として、まちづくり、物流業、観光業、水産業、環境関係等、多面的な利用方策が整理されている。

これにより、個別の取組を推進するにあたり、これら複数分野の関係機関・関係者との間で、利害関係も含めた、利用上の問題点や課題が発生することも想定される。

そのため、取組をすすめる検討の初期段階から、行政機関である役場が主体となって、当該関係機関・関係者となる利用者や地域住民等と意見交換や調整等、合意形成を図っていくことが必要となる。

(3) 本長期構想の柔軟な見直し

前述したように、本長期構想は、約 20 年後の令和 27 年頃を計画目標年次とした今後の鴛泊港の利用方策を取りまとめたものである。

今回、本長期構想を策定するにあたって、例えば、輸出促進及び衛生管理を目的とした屋根付き岸壁、自然海浜を残して最低限の整備とした親水空間等、現状で求められるニーズに応じて計画の検討や規模の見直しを行っている。

そのため、今後の 20 年間でも、社会情勢の変化等により、利尻富士町及び鴛泊港に求められる役割や機能に変化が生じることも想定されることから、地域の要請や課題等を受けて、適宜、本長期構想の取組内容や規模・整備時期等について、柔軟に見直しや軌道修正を行っていくことが重要である。

8.2 個別の取組内容に関する留意事項

図 8-1-1 個別の取組内容に関する留意事項

整備メニュー	留意事項
緑地の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車スペース面積及び場所の検討 ・ 現状の施設配置の見直しによる緑地の再整備 ・ 駐車場利用者への確認と配置案の決定
駐車場不足への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな駐車スペースの確保 ・ 利用ルール of 策定と遵守 ・ 利用状況に応じた駐車場配置の見直し
親水空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベンチやウッドデッキの配置検討
体験交流型スポットの創出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験メニューの検討(タッチプール、ウニ剥き体験、昆布加工体験等) ・ 施設規模の検討 ・ 多目的利用方策の検討(イベント活用、特産品販売等) ・ みなとオアシスへの登録
みなとオアシスの取組拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たなイベントの開発 ・ Sea 級グルメの開発 ・ サイクリストの受入環境整備
老朽化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健全度調査による対象箇所の検討
フェリーの船体動揺の低減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁場への影響検討 ・ 漁船及び船舶の航行・係留・荷役への影響検討 ・ 漂砂の影響検討 ・ 外郭施設整備の設計 ・ 工事ヤード利用計画の検討
漁業活動における衛生管理と輸出促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象魚種の決定 ・ 場所、延長、高さ、壁有無等の検討 ・ 利用計画の策定及び輸出促進計画の策定 ・ 他漁業種との利用調整
気候変動等に対応した水産資源の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 増養殖試験の継続 ・ 新たな静穏水域の確保の検討 ・ ウニ加工品の観光客への提供方法の検討
災害時における本土との物流機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 杓形港との役割分担の整理 ・ 対象箇所及び施設規模(延長・水深)の検討 ・ 整備途中の代替岸壁検討
みなとのにぎわい創出のための空間創出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存緑地公園との機能の差別化 ・ 遊具、テーブル・ベンチ等の設置場所の検討 ・ 運用・管理方法の検討
脱炭素化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緩和策(錨泊港における再エネ・省エネ促進、緑化対策等)の検討 ・ 適応策(ハザードマップ整備、水位上昇に伴う港湾施設の改良)の検討 ・ ウニ籠養殖における海藻海面養殖、ウニ殻を活用した低炭素藻礁等の調査・研究 ・ J プルークレジット等、カーボンクレジット活用による継続的取組の確立
港内静穏度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静穏度解析による防波堤(波除)の規模・配置検討(鬼脇港区) ・ 第二船揚場の擾乱要因の検討(鬼脇港区)